

第 39 回委員会（2005.2.5 開催）結果報告		2005.3.7 庶務発信
開催日時：	2005 年 2 月 5 日（土）16：03～18：55	
場 所：	みやこメッセ 1 階 第 2 展示室 D	
参加者数：	委員 23 名、河川管理者（指定席）19 名、一般傍聴者（マスコミ含む）127 名	
1. 決定事項		
・委員の互選により、流域委員会委員長は寺田委員に決定した。また、委員長の指名により、委員長代理は三田村委員に決定した。 ・委員の互選により、琵琶湖部会長は中村委員、淀川部会長は今本委員、木津川上流部会長は川上委員、猪名川部会長は池淵委員に決定した。 ・地域部会長の指名により、木津川上流部会長代理は村上哲夫委員、猪名川部会長代理は村上興正委員に決定した。琵琶湖部会長代理と淀川部会長代理については、次回の委員会までに決定する。 ・各地域部会の委員構成が承認された。 ・これまでと同様に運営会議を開催することが決定した。		
2. 開会の挨拶、委員の紹介		
審議に先立って、近畿地方整備局長より挨拶がなされた後、庶務より委員の紹介がなされた。		
3. 審議の概要		
①委員会の目的・任務等の説明		
河川管理者より、資料 1「新委員会にかかわる資料」を用いて説明がなされた。		
②委員長の選出		
委員の互選により、流域委員会委員長が「1. 決定事項」の通り、寺田委員に決定した。		
③新旧委員長の挨拶		
芦田前委員長より、旧委員会委員の思い等について、挨拶がなされた。その後、寺田委員長より就任の挨拶がなされた。		
（芦田前委員長の挨拶）		
・自然環境の豊かで安全な川を作ろうという共通の理念を持って、4 年間の委員会活動をやってきた。河川管理者もこれに応えてがんばってやってこられた。委員会では、徹底的な情報公開、一般からの意見聴取、委員自身による運営と意見書作成等をしてきたが、必ずしも良い面ばかりではなかった。そういった改善点や委員の思いについて、資料 4-8「委員会活動の総括に係わる委員会の意見」としてまとめているので、新委員会にはこれを継承して頂きたい。ダムと琵琶湖水位操作の総合的な検討に関しても、中間とりまとめを提出しているので、引き続き、検討して頂くようお願いしたい。		
（寺田委員長の挨拶）		
・委員会にはたくさんの仕事が残されている。若輩者の私がどの程度役割を果たすことができるかわからないが、一生懸命やりたい。退任された委員には感謝を述べたい。そして、新しく委員になられた 13 名には新しい活力を注ぎ込んで頂き、流域委員会をより内容の濃いものにしていくため、ご協力をお願いしたい。試行錯誤を経た委員会だったが、「淀川モデル」と称せるような新しい公共事業計画の形と住民意見の反映方法について、新しい方向付けを示し得た。しかし、課題も多くある。地域部会やテーマ別部会、WGといったこれまでの検討方法がそのままではよいとは思っていない。活性化できるような新しい方法が必要だ。住民参加についても、委員会が自ら提言したものを十分に検証できていないし、委員会が積極的に住民の意見を十分に聴いて吸収することができたとも思っていない。皆さまのご意見を聴きながら、具体的で的確な住民参加の方式を示し、住民意見の吸収を実践していきたい。		
④委員会の体制について		
「1. 決定事項」の通り、各地域部会の委員構成が承認された。なお、部会運営に応じて、委員追加・		

変更等の柔軟な対応をしていくことが確認された。その後、委員の互選により、「1. 決定事項」の通り、各地域部会長、部会長代理が決定した。

⑤今後の委員会の進め方について

部会構成について、意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・旧委員会では、地域別部会、テーマ別部会、WG等の体制で審議をしてきたが、別の視点からの検討も必要だと思っている。重要な課題を検討するためには、WGやプロジェクトチームといった方法もある。体制については、次回委員会で規約改正を行い正式に決定するが、委員のご意見を頂きたい（委員長）。
- ・テーマ別部会は作った方がよいと思うが、イメージがわからない。意見を募集してはどうか。
- ・今後、流域社会システムという概念が必要になってくる。流域全体を1つの社会システムとして見た時にどのようにして計画からマネジメントへ、マネジメントから計画へ返していくのか。そういうテーマが作れればよいと思っている。
- ・事業評価の方法については専門的な場で審議する必要があるのではないかな。
- ・旧委員会のテーマ別部会は、少し時間の無駄だったと思っている。ダムWGは環境・治水・利水・住民参加まで含む横断的なテーマであり、1つの部会として立てる必要性もあるのではないかな。
- ・テーマに分けて議論する段階は終わったと思うが、「総合的」を強調しすぎると焦点が絞れなくなる。少しテーマを絞った総合性のある部会が必要だ。ダムについては、WGではなく、部会として開催し、審議の透明度を上げるべき。また、琵琶湖水位操作については、部会として取り上げるべきではないかな。
- ・4つの地域部会がまずありきという話だが、たとえば、淀川の生物のために河川敷の冠水頻度を上げるためには、琵琶湖水位や洗堰での水位操作が関係してくる。下流の淀川部会だけでは解決できない。地域別部会についても、テーマ別部会同様に、ダイナミックに考えてみるべきではないかな。
- ・基礎案の個別事業の評価をするためには、地域の事情を知っていることが重要。また、地域別部会はこれまでの委員会活動の中でかなり有効に機能してきたという判断の元で4つの地域部会が決定された。淀川と琵琶湖の関わりや琵琶湖水位操作については、新たな部会を提案して頂ければよいだろう。

⑥委員会の経過、新委員会の当面の課題について

河川管理者より、資料 4-1「委員会の経過について」とスライドを用いて説明がなされた後、今本委員より、これまでの流域委員会の歩みについて説明がなされた。

- ・送付されてきた資料を一通り見たが、治水の現状について、よくわからなかった。各河川が現状でどの程度の洪水や台風に耐えられるのか。治水レベルの現状について教えていただきたい。
 - ←治水、利水、環境の現状に関する資料は膨大にあるので、新規委員には早急に配付したい。また、新規委員には資料や説明が十分には共有できていない面もあるため、河川管理者による説明会を開催させて頂きたい。説明会の開催に関しては、運営会議で決めて頂きたい（河川管理者）。
- ・現地視察や現地見学も開催して欲しい。

4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者3名より発言があった。

- ・委員にはもっと積極的に発言をして頂きたい。特に新規委員には抱負を伺いたかった。
 - ←新規委員には、次回委員会で抱負を語って頂きたいと思っている（委員長）。
- ・部会の構成メンバーを早急に公開して欲しい。また、ダムの調査・検討がいつ出されるのか。委員は河川管理者に要求してほしい。
 - ←部会のメンバーに関しては、できるだけ早くHPで公開する。ダムについては、河川管理者の報告を待つのではなく、予想される問題を先取りして議論する必要があると思っている（委員長）。
- ・委員会の体制に関して、一般傍聴者としての提案を庶務に提出すれば、議論の対象となるのか。
 - ←意見を出して頂きたい。参考にして、的確な検討ができるような体制を考えたい（委員長）。

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。